

事前評価個表

整理番号	1
------	---

地域（地区）名	そ う や 宗 谷	事 業 名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	北海道	対 象 市 町 村	さるふつむら 猿払村ほか8市町
事業実施期間	H28 ～ H32（5年間）	事業実施主体	市町村、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	本地区は、北海道北部に位置し、地形は低山性、西は日本海、東はオホーツク海、北は宗谷海峡と三方が海に面している。 本地区の総面積463千haのうち、森林面積は325千ha（森林率70%）、対象民有林は156千ha（森林全体の48%）、うちトドマツを主体とした人工林は86千ha（人工林率26%）となっている。また、本地区内の林道延長は445,192mで、公道等を含む林内道路密度は11.1m/haとなっており、このほかに林道の支派線として作業道が整備されている。 本地区内の民有林人工林のうち21千ha（人工林の48%）がⅦ齢級以下で、適正な保育・間伐を必要とする林齢にあるが、近年の木材価格の低迷と林業従事者の高齢化や不況等から手入れが不十分な森林が見られるようになってきた。 このため、宗谷地域森林環境保全整備事業計画に基づき本事業による森林整備及び路網整備を実施する。
事業内容・事業費	森林整備：19,112ha 人工造林、樹下植栽、下刈り、枝打ち、除伐、保育間伐、間伐、更新伐等 路網整備：9,812m 林業専用道 総事業費：4,482,715千円
費用対効果分析結果	B/C = 4.50 （総便益(B) = 30,617,653千円、総費用(C) = 6,810,342千円）
評価結果	必要性：保育対象林分の賦存状況、森林整備の緊急性等から見て必要性が高い。 効率性：費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。 有効性：健全な森林づくり等によって水源涵^{かん}養、国土保全等の機能の確保はもとより、将来の優良材の安定的生産にとって有効である。

整理番号

1

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業

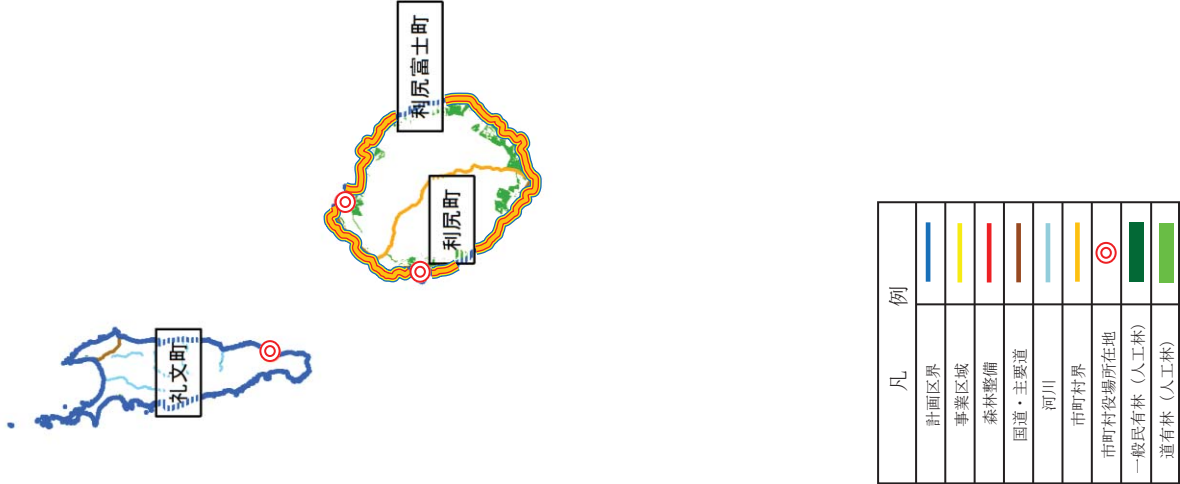
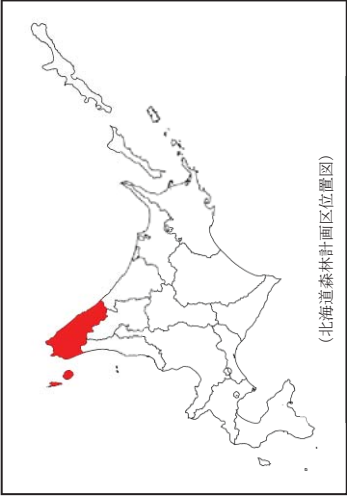
都道府県名: 北海道

地域(地区)名: 宗谷^{そうや}

(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養 ^{かん} 便益	洪水防止便益	5,607,703	
	流域貯水便益	1,982,426	
	水質浄化便益	4,340,762	
山地保全便益	土砂流出防止便益	12,321,162	
	土砂崩壊防止便益	57,030	
環境保全便益	炭素固定便益	2,950,131	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	16,820	
	木材利用増進便益	3,610	
	木材生産確保・増進便益	2,910,424	
森林整備経費縮減等便益	造林作業経費縮減便益	1,015	
	森林整備促進便益	426,570	
総 便 益 (B)		30,617,653	
総 費 用 (C)		6,810,342	
費用便益比	$B \div C = \frac{30,617,653}{6,810,342} = 4.50$		

森林環境保全整備事業 宗谷（北海道）



事前評価個表

整理番号	2
------	---

地域（地区）名	あばしりとうぶ 網走東部	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	北海道	対象市町村	あばしりし 網走市ほか10市町
事業実施期間	H28 ～ H32（5年間）	事業実施主体	北海道、市町、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	本地区は、北海道の北東部に位置しているオホーツク総合振興局の東半分の地域であり、世界自然遺産に登録された知床半島をはじめ、網走国定公園など自然公園が多く、森と湖と海が調和した自然豊かな地域である。 また、地形は、オホーツク海沿岸部には平地が多く、西部に北見山地、南から東にかけては、阿寒、知床連山を源として、網走川・常呂川等の河川が、北見盆地等の平野部を経てオホーツク海に注いでいる。 本地区の総面積595千haのうち、森林面積は390千ha（森林率約66%）で、対象民有林は149千ha（森林全体の38%）、うちカラマツ及びトドマツを主体とした人工林は77千ha（人工林率52%）となっている。また、本地区内の林道延長は699,094mで、公道等を含む林内道路密度は19.1m/haとなっており、このほかに林道の支派線としての作業道が整備されている。 本地区は全道で有数のカラマツ林業地帯であり、一般民有林を中心に広く植栽されている。年齢構成はⅨ～Ⅹ年齢級に集中しており、主伐の時期を迎えているが、間伐期にあるⅣ～Ⅷ年齢級の資源が非常に少なく、偏った資源構成となっている。将来にわたり木材の安定した供給を確保するに当たって、今のうちから資源管理に留意する必要があると考えられる。 また、近年、カラマツ材の需要が急増し、一時的に伐採が進む一方で、木材価格が十分に所有者に還元されなかったり、長引く不況から、伐採後造林されない伐採跡地が増加する事態となっている。 このことから、地域の森林資源を循環的に利用していくために適切な森林整備を進めていく必要がある。 このため、網走東部地域森林環境保全整備事業計画に基づき本事業による森林整備及び路網整備を実施する。
事業内容・事業費	森林整備：34,040ha 人工造林、樹下植栽、下刈り、枝打ち、除伐、保育間伐、間伐、更新伐等 路網整備：1,630m 林業専用道 総事業費：7,754,557千円
費用対効果分析結果	B/C = 3.50 (総便益(B) = 56,387,796千円、総費用(C) = 16,117,183千円)
評価結果	必要性：保育対象林分の賦存状況、森林整備の緊急性等から見て必要性が高い。 効率性：費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。 有効性：健全な森林づくり等によって水源涵養、国土保全等の機能の確保はもとより、将来の優良材の安定的生産にとって有効である。

整理番号

2

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業

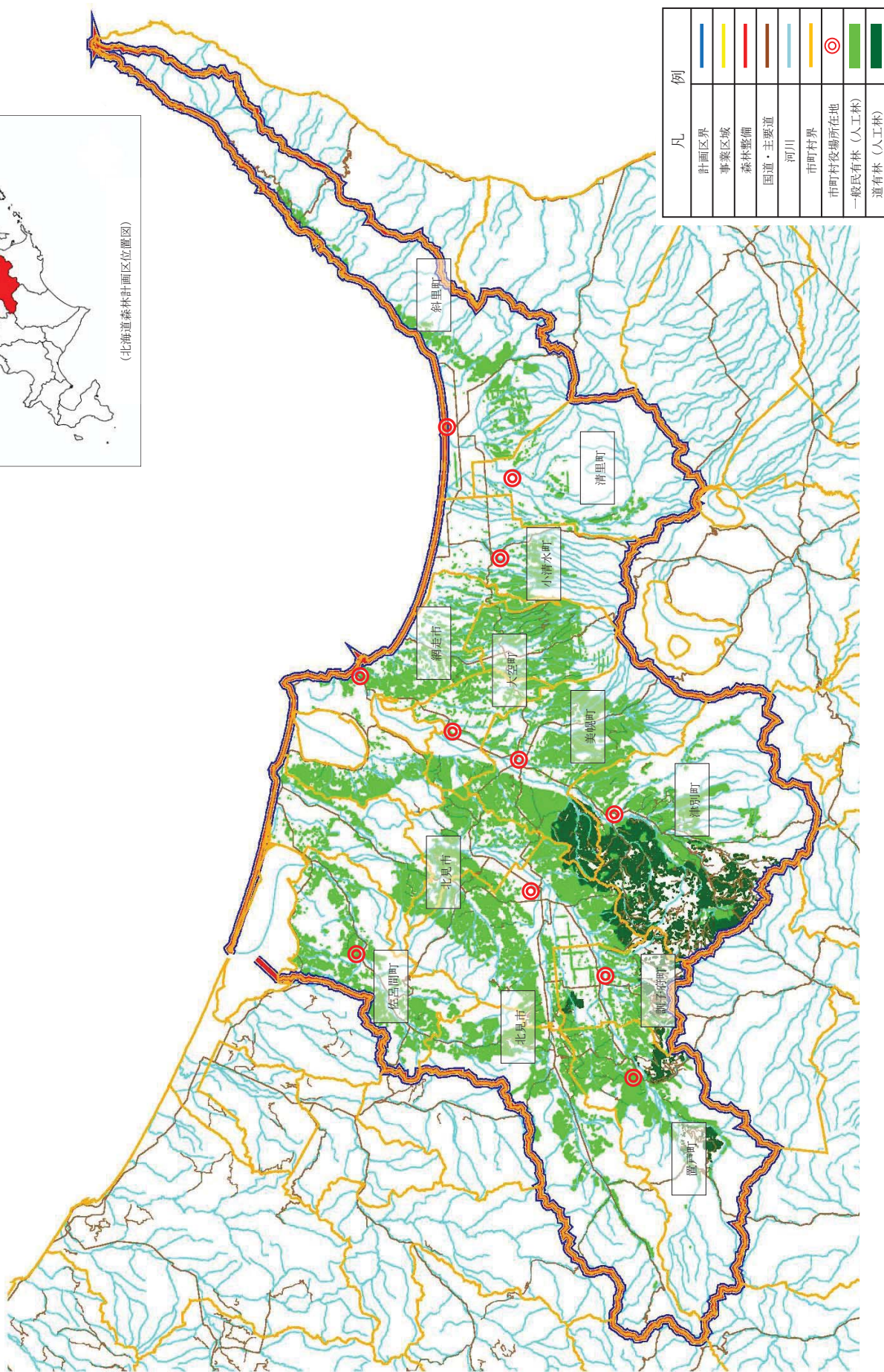
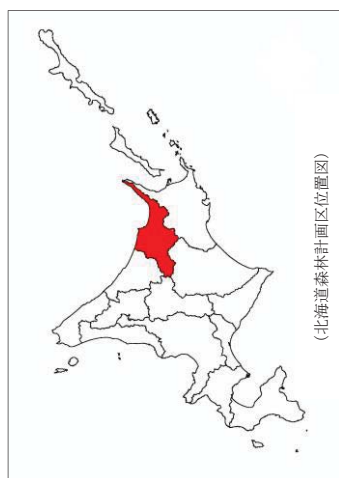
都道府県名: 北海道

地域(地区)名: 網走^{あばしり}東部^{とうぶ}

(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源 ^{かん} 涵養便益	洪水防止便益	10,519,520	
	流域貯水便益	2,902,185	
	水質浄化便益	6,304,513	
山地保全便益	土砂流出防止便益	23,113,313	
	土砂崩壊防止便益	128,150	
環境保全便益	炭素固定便益	7,013,407	
木材生産等便益	木材生産確保・増進便益	6,359,394	
森林整備経費縮減等便益	森林整備促進便益	47,314	
総 便 益 (B)		56,387,796	
総 費 用 (C)		16,117,183	
費用便益比	$B \div C = \frac{56,387,796}{16,117,183} = 3.50$		

森林環境保全整備事業 網走東部（北海道）



事前評価個表

整理番号	3
------	---

地域（地区）名	いぶりとうぶ 胆振東部	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	北海道	対象市町村	しろおいちよう 白老町ほか4市町
事業実施期間	H28 ～ H32（5年間）	事業実施主体	北海道、市町、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	本地区は、北海道の中南部にある胆振総合振興局の東部に位置した地域であり、地形は緩やかな丘陵山脈、南は全市町が太平洋に面している。 本地区の総面積234千haのうち、森林面積は163千ha（森林率70%）、対象民有林は99千ha（森林全体の61%）、うちカラマツ及びトドマツを主体とした人工林は58千ha（人工林率36%）となっている。また、民有林内の林道延長は294,003mで、公道等を含む林内道路密度は10.6m/haとなっており、このほかに林道の支派線としての作業道が整備されている。 本地区内の民有林人工林のうち12千ha（人工林の35%）がⅧ齢級以下で、適正な保育・間伐を必要とする林齢にある。これまでも間伐材の利用に取り組んできたが、さらに間伐遅れ林分の施業を行い、「間伐材等の林地残材」を積極的・有効的に利用していくとともに、間伐だけでなく「未立木地及び伐採跡地」の早期解消及び森林の公益的機能の発揮に努める必要がある。 このため、胆振東部地域森林環境保全整備事業計画に基づき本事業による森林整備及び路網整備を実施する。
事業内容・事業費	森林整備：24,543ha 人工造林、樹下植栽、下刈り、枝打ち、除伐、保育間伐、間伐、更新伐等 路網整備：8,600m 林業専用道 総事業費：6,140,989千円
費用対効果分析結果	B/C = 4.95 （総便益(B)=43,926,295千円、総費用(C)=8,879,489千円）
評価結果	必要性：保育対象林分の賦存状況、森林整備の緊急性等から見て必要性が高い。 効率性：費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。 有効性：健全な森林づくり等によって水源涵養、国土保全等の機能の確保はもとより、将来の優良材の安定的生産にとって有効である。

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業

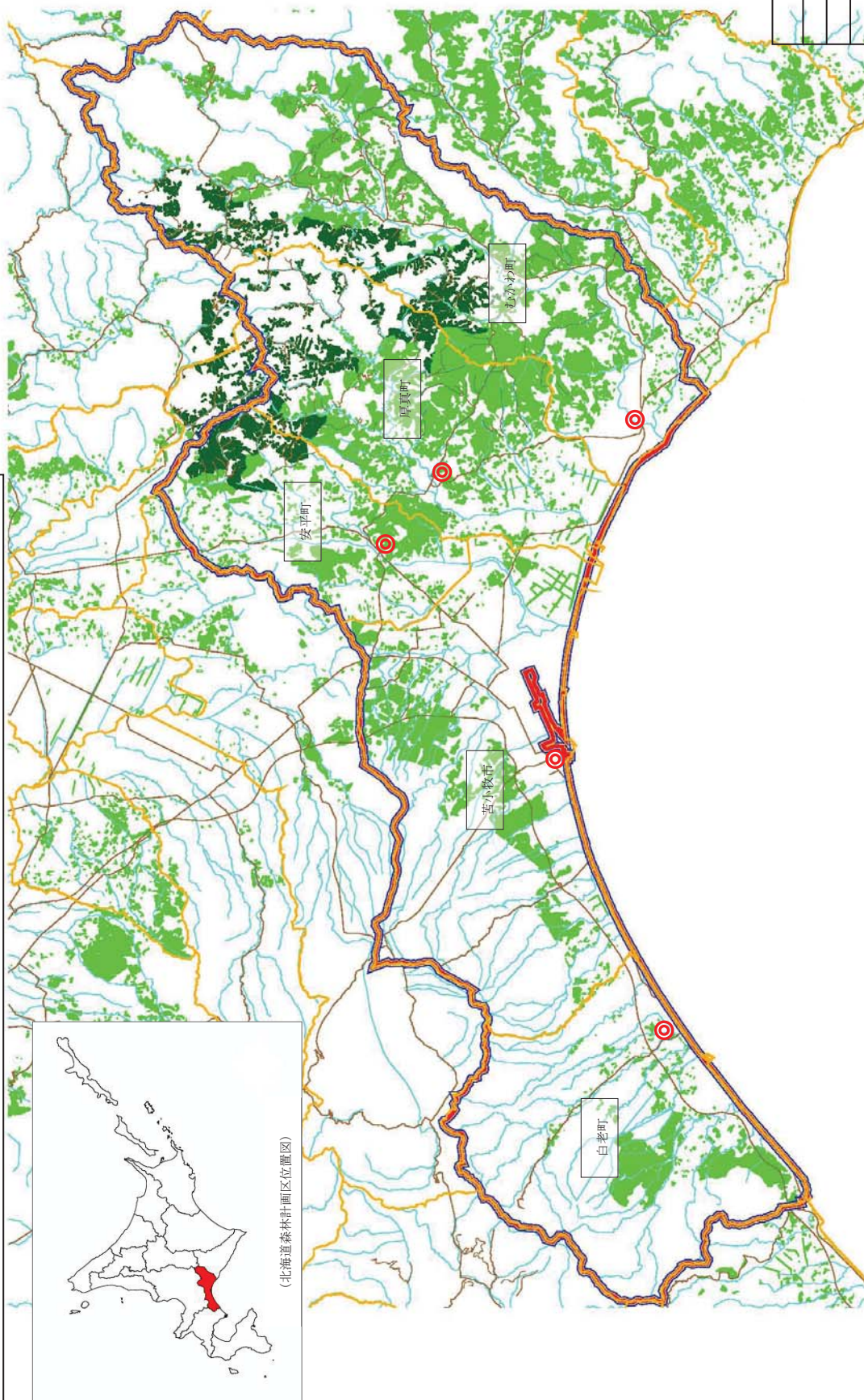
都道府県名: 北海道

地域(地区)名: 胆振^{いぶり}東部^{とうぶ}

(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源 ^{かん} 涵養 ^{かんよう} 便益	洪水防止便益	11,044,305	
	流域貯水便益	2,809,485	
	水質浄化便益	6,148,242	
山地保全便益	土砂流出防止便益	15,503,479	
	土砂崩壊防止便益	1,757,960	
環境保全便益	炭素固定便益	3,497,809	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	4,554	
	木材生産確保・増進便益	2,713,873	
森林整備経費縮減等便益	造林作業経費縮減便益	90	
	森林整備促進便益	446,498	
総 便 益 (B)		43,926,295	
総 費 用 (C)		8,879,489	
費用便益比	$B \div C = \frac{43,926,295}{8,879,489} = 4.95$		

森林環境保全整備事業 胆振東部（北海道）



事前評価個表

整理番号	4
------	---

地域（地区）名	とうせい 東青	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	青森県	対象市町村	あおもりし 青森市ほか4町村
事業実施期間	H28 ～ H32（5年間）	事業実施主体	県、市町村、森林組合等

事業の概要・目的	本地区は、青森県の中央部に位置している。 本地区の森林面積は112千ha（森林率76%）、対象民有林は44千ha（森林全体の39%）、うち人工林は21千ha（人工林率49%）であり、齢級構成においてはⅨ～Ⅹ齢級がピークとなっている。 造林補助事業による森林整備を実施してきたが、地域の一部において間伐等の整備の遅れから樹木の生育不良や林床植生の衰退による土壌流出が見られるほか、豪雨時の山腹崩壊や不安定土砂の堆積により汚濁水の流下が見られ、戦後造林された民有林のスギ人工林は人工林の85%を占め、現在間伐による利用伐期にあることから、積極的な間伐実施が求められている。 また、国土保全、水源涵養、地球温暖化の防止、林産物の供給など森林が有する多面的機能の発揮のために、効率的に森林整備を進める必要がある。 このため、本県では市町村森林整備計画に基づき、森林整備を計画的に推進するとともに、森林吸収源対策として特定間伐等及び特定母樹の増殖の実施の促進に関する基本方針に基づき間伐等を促進し、さらに県が策定した青い森再造林推進プランに基づき再造林による森林資源の循環システムの構築を図ることとしている。 森林施業の推進に当たっては、本事業により森林施業の集約化や路網整備、低密度植栽や一貫作業システムの導入など施業の低コスト化を着実に実施しながら、森林の持つ公益的機能を高度に発揮させ、間伐された木材利用を通して資源循環型社会の構築を目指し、郷土の森づくりを推進する。
事業内容・事業費	森林整備：5,325ha 人工造林、樹下植栽、下刈り、雪起こし、枝打ち、除伐、間伐、更新伐等 総事業費：3,636,996千円
費用対効果分析結果	B/C = 2.90 （総便益(B) = 18,573,712千円、総費用(C) = 6,403,962千円）
評価結果	必要性：森林整備が必要な森林が多く存在することから、森林の公益的機能を高めるとともに、森林吸収源対策として事業実施は必要不可欠である。 効率性：費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。 有効性：森林整備による水源涵養、土砂流出防止、地球温暖化防止、多様な森づくりによる生物多様性等公益的機能の維持増進の観点、森林資源の有効活用の観点から有効である。

整理番号

4

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

都道府県名：青森県

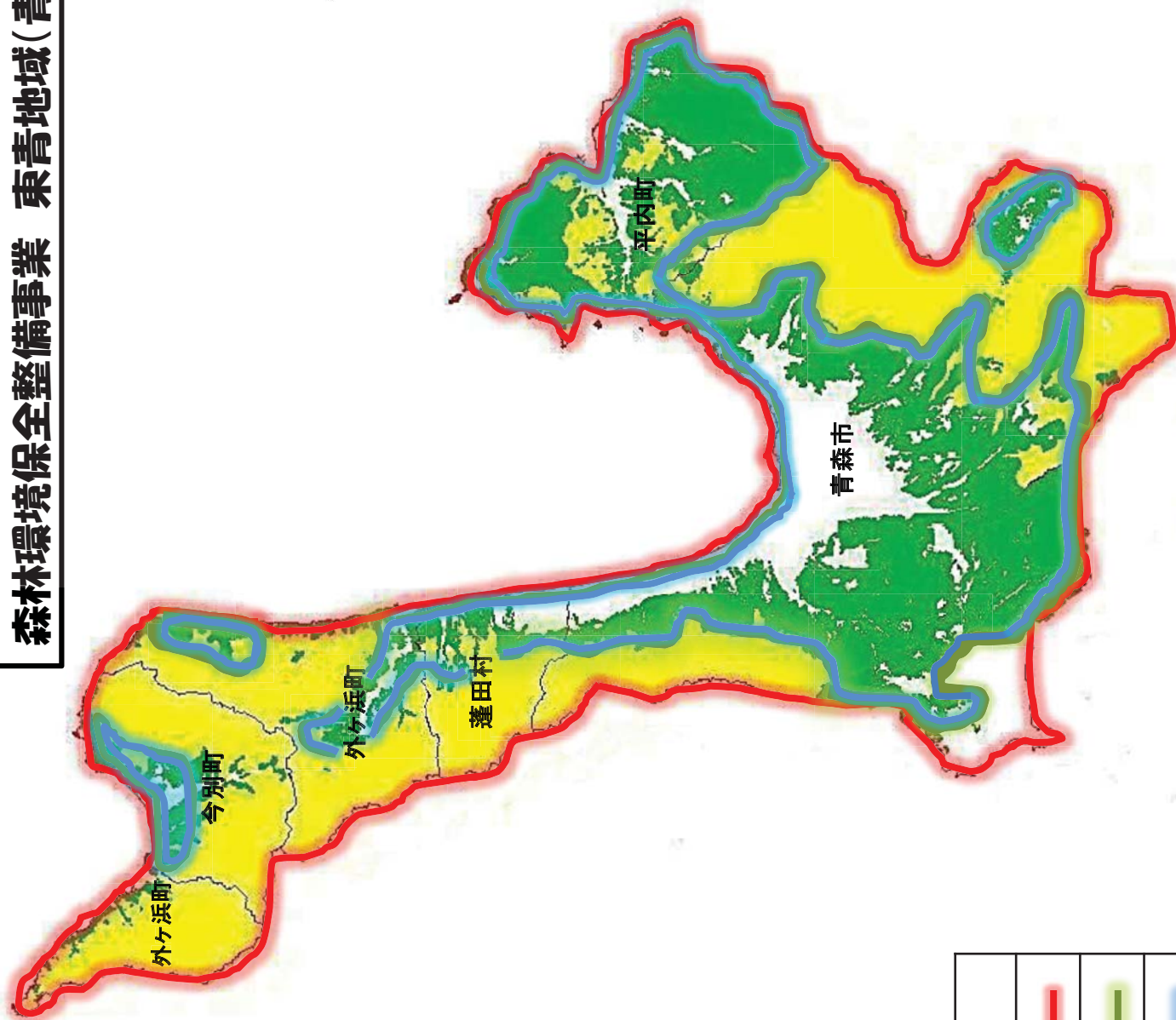
地域(地区)名：東青^{とうせい}

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養 ^{かん} 便益	洪水防止便益	4,289,870	
	流域貯水便益	1,518,518	
	水質浄化便益	3,316,690	
山地保全便益	土砂流出防止便益	6,882,189	
	土砂崩壊防止便益	8,751	
環境保全便益	炭素固定便益	2,557,694	
総 便 益 (B)		18,573,712	
総 費 用 (C)		6,403,962	
費用便益比	$B \div C = \frac{18,573,712}{6,403,962} = 2.90$		

森林環境保全整備事業 東青地域(青森県) 概要図

青森県内での位置



凡例	
計画区域	
事業区域	
森林整備	

事前評価個表

整理番号	5
------	---

地域（地区）名	きたかみがわじょうりゅう 北上川上流	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	岩手県	対象市町村	もりおかし 盛岡市ほか5市町
事業実施期間	H28 ～ H32（5年間）	事業実施主体	県、市町、森林組合等

事業の概要・目的	本地区は、岩手県のほぼ中央部に位置し、東は北上高地、西は奥羽山脈で秋田県と接し、その中間に北上川流域の平坦部地を有する2市4町を包括する。 本地区の森林面積は165千ha（森林率70%）、対象民有林は102千ha（森林全体の62%）、うち人工林は45千ha（人工林率45%）となっている。 人工林の齢級構成は、Ⅷ～Ⅻ齢級が全体の62%を占めており、森林資源は成熟しつつある一方で、間伐が必要なⅣ～Ⅵ齢級の森林が39%を占めており、健全な森林を育成していくうえでも間伐等の森林整備が必要となっている。 しかしながら、近年、林業採算性の低下や森林所有者の経営意欲の減退により、手入れが遅れた森林が増加するなど、森林のもつ水源涵養等の公益的機能の発揮に支障をきたすおそれがある。 このため、北上川上流地域森林環境保全整備事業計画を作成し、これに基づき、意欲と実行力を有する林業事業体等による、集約化された計画的な森林施業の実施を促進する必要がある。 具体的には、本計画に基づき、本事業による効率的な施業に不可欠な森林作業道の整備と搬出間伐や再造林等の森林整備を一体的・計画的に実施する。
事業内容・事業費	森林整備：5,750ha 人工造林、下刈り、枝打ち、除伐、間伐等 総事業費：1,560,190千円
費用対効果分析結果	B/C = 5.71 （総便益（B）=12,168,601千円、総費用（C）=2,132,296千円）
評価結果	必要性：森林の公益的機能を高度に発揮させるための再造林や間伐等の計画であることから、必要な計画である。 効率性：費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。 有効性：計画的な森林整備により水源涵養や国土保全等の機能の確保に加え、森林作業道の開設等により間伐材の搬出量の増加が期待されることから、有効な計画である。

整理番号

5

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業

都道府県名: 岩手県

地域(地区)名: 北上川上流^{きたかみがわじょうりゅう}

(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養 ^{かん} 便益	洪水防止便益	2,738,882	
	流域貯水便益	673,299	
	水質浄化便益	1,499,604	
山地保全便益	土砂流出防止便益	3,384,105	
環境保全便益	炭素固定便益	2,303,270	
木材生産等便益	木材生産確保・増進便益	1,569,441	
総 便 益 (B)		12,168,601	
総 費 用 (C)		2,132,296	
費用便益比	$B \div C = \frac{12,168,601}{2,132,296} = 5.71$		

森林環境保全整備事業 北上川上流流域(岩手県)概要図



凡例	
	森林計画区界
	事業区域
	森林整備